

令和6年度文部科学省「特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業」
研修パッケージ② 「特異な才能のある児童生徒」の特性を活かす授業の柔軟化（2）
－小学校高学年～中学校編－
振り返り資料

Step. 1

(1) 次の文章中の(①)と(②)に入る言葉として適切なものを選びましょう。

単元内自由進度学習では、単元内の一定の学習時間について、学ぶペースや場所、(① 順番・単元内容)、教材などを子供たちに任せ、子供自身が自分に合った学習計画を立てて学びます。一方で、生徒の資質・能力を育むための大切な単元計画の策定や、様々な発展・拡充のための(② 校則・教材)の準備、行き詰まっている子供への適切な支援がなければ、取り残されてしまう児童生徒がでてしまう恐れもありますので、教師の授業構想力が試される実践でもあります。

(2) 研修パッケージの中では、世界の時事問題に強い関心を持つ生徒や多様な多くの情報を分析的に考えるような特性を示す生徒を想定して考えられたパフォーマンス課題の例が紹介されていました。参考にして、才能のある児童生徒のいくつかの特性を挙げ、それらの特性を踏まえたパフォーマンス課題を考えてみましょう（同じ授業内容でも他の学年、教科・単元等でもかまいません）。

--

Step. 2

小学校高学年から中学校の授業で使っている教科書か教師用指導書を一つお持ちください（どの教科、学年でもかまいません。学習指導案でもかまいません）。そして、単元全体を通して、あるいは一つの授業について、その授業計画の中で、才能のある児童生徒の特性を活かす工夫のできる点を考えてみましょう。そしてそれらの工夫から想定される学習成果やクラスへの波及について話し合ってみましょう。